



もとhashi つうしん 本橋通信

第5号
2021年1月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★★

◆親父の旅立ち◆

皆さまこんにちは。本橋通信第5号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。2021年初の通信から私事で恐縮なのですが、11/30に私の父が他界しました。75年の生涯でした。

躰に非常に厳しいと言えれば聞こえが良いのですが、何かにつけスグに手が飛んでくる少々理不尽な部分もあった人でしたので、幼い頃は正直苦手な存在でした。特に長男である私は、結構な確率で親父のカミナリ被害に遭い、それを見ていた弟は要領よく勘所を習得し、鉄拳被害を最小化していました。

そんな父でしたが、ささやかながら家族のイベントは大切にしてくれました。私と弟には機会平等に人並みの教育環境を用意してくれました。それなりの大人になると、何ら小言を言われた記憶はなく、無関心とも言える完全放任スタイルでした。人付き合いやコミュニケーションが得意ではなく、周りの方々からは多少誤解されやすいタイプでしたが、私たちの意思は尊重し、信じて応援してくれていたのだと勝手に解釈しています。もっと一緒に美味しいものを食べたり、いろいろな話をしてあげれば良かったなあ…と、正直少し寂しく思う事もありますが、改めて思い返すと、たくさん楽しい思い出を記憶に残してくれました。

お客さまの人生設計やご資産に深く関わるFAという仕事に長年携わる中で、大切なご家族への様々な想いに触れる場面も自ずと多くなります。その時感じていた『これまで自分が未経験であるが故に、真に理解ができずにいたお客さまの想いや気持ち』というものが、ほんの少しではありますが、解るような気がしています。新しい21年、目と耳と心で、お客さまの声を「聴く」ことに、より一層フォーカスする1年に。

母は大丈夫かなと少し心配していましたが、「この機会に良い仏壇を買ってやろう」とスマホのGoogleに向かって『ハチオウジ ブツグヤ』とかブツブツ言っていましたので、元気で心配は要らなそうです(笑)

♣ Vivaアメリカ株式!!勉強会@Zoom♣

世界が大注目した政治イベントが終了した12月初旬米国投資週刊誌「バロンズダイジェスト」の編集人で米国株式啓蒙家でもあるエグゼトラストの川田社長をお招きして、会員限定企画「Vivaアメリカ株式!!WEB勉強会」を開催しました。

約2時間に渡り、資産運用の有力ツールである米国株式について真の魅力を余すところなくご披露頂きました。グローバル株式市場でどんどん巨大化する米国企業は、資本主義だけでなく私たちの日々の暮らしの中でも、とても身近な存在であることは疑いのない事実です。マイクロソフトのWindows内蔵PCで仕事をし、iPhoneやiPadというAppleのデバイスを手にGoogleでわからない事を検索、アマゾンで日々買い物をし、クレジットカードでの代金支払いはVisaの決済システムを利用する等、米国企業の製品・サービスの圧倒的な存在感を実感しない日はありません。今回も札幌から福岡まで多くの方と、場所の制約なく勉強会ができるのもZoomサマサマ。まさに米国企業の底流にある「人類のより便利で快適な生活のために出来ることは何だ!」という、スケールが大きくオセッカイな米国人の気質が生んだ「革新と創造の賜」だと感じます。こうした米国企業のDNAを再認識し、その企業価値を具現化した米国株式という投資対象に触れることができた貴重な勉強会でした。Vivaアメリカ株式! Thank you 川田社長!

川田重信のありがとうアメリカ株式チャンネル で検索! ※私も時々出演してるんですよ



☆CNO(Chief何でもオフィサー)田村の本棚より☆

週1回程度の本橋君とのブレストでは、『本質』という言葉が良く出ます。仕事にせよ私事にせよ、改めて考えると難しい言葉。相対(お客様や社会)・絶対(自社・自分)もしくは両方を満たすことが求められ、普遍であり時代により変容します。私達が話すのは専らサービスや業務について正解のない『本質』についてあれこれ話をします。私が『本質』について思う様になったのは、学生時に読んだ、今井和也著『テレビCMの青春時代』に記された、CMディレクター杉山登志の遺書と言われる文章がきっかけ。『リッチでないのにリッチな世界などわかりません。ハッピーでないのにハッピーな世界などえがけません。「夢」がないのに「夢」をうることは…嘘をついてもばれるものです』。これを読み、当時うつすらとコンテンツやメディア企業へと考えていた私は、「本当にやりたい仕事は？自分は何を実現したい？ムムム」と再考、「ソフトは生活に豊さや彩をもたらす、でももっと具体的に生活や社会に貢献できる仕事は？」「デベロッパーかな」と社会へ。その後も、仕事で『本質』について考える様に。例えば、誘致するテナント。お客様が求めるテナントは？求められているモノコトは？これからは何が求められる？といった具合。そして、数年前に手にした横井軍平著『横井軍平ゲーム館』(ちくま文庫)に、これまでの総括を発見。横井氏は任天堂のゲームウォッチやゲームボーイの生みの親。その開発エピソードを基に哲学が軽妙に書かれています。『枯れた技術の水平思考』が本流ですが、個人的には「ゲームの面白さは画素数等のスペックではない」「ユーザーは何を求めているか」といった考え方に腹



落ち。この本は、ゲームの本質である「楽しみ」を追求した横井さんの哲学と、その具現化のために行われたマネジメントやリーダーシップ・フォロワーシップについて書かれており、とても面白いです。さて「本質」に話を戻しますと…本橋オフィスはまだまだこれから、絶対や完璧は難しいのですが、本橋君と「本質」を目指してサービス・業務を推進・構築して参ります。

◆編集後記◆

※十二支の由来と相場を重ねるのは日本の話で、海外市場には当てはまらないかもです…

2021年の干支は丑(うし)です。1/1の朝、神の許に1番から12番目までに来たものを、1年交代で動物の大将とする「十二支の由来」の昔話は有名です。新年の朝陽と共に1番で現れたのは牛ですが、背中に乗っていたネズミが「新年おめでとうございまチュウ」と神様に挨拶し1番乗り、2番目の牛は「モウ！」と悔しがったとされています。自らの歩みが遅いと知っていた牛は、どの動物よりも早く前日夕方に出発し、2番手ながら計画的に地道なゴールを果たしました。相場格言で「丑はつまずき」と要注意な21年ですが、小心者FAの私としては、マーケットを正しく怖がりながらも、皆さまが着実にリターンを享受できる1年にしたいと思います。

◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客様専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快！)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読？)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋FαオフィスWEBサイトは **本橋 IFA** と検索！ <https://www.pfa-withyourlife.jp/>
皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp